



◀収穫を前に各地区の受検組合長が参加

受検組合長会議を開催

J Aあきた白神

平成27年産米の概算金・買取米価格について協議する受検組合長会が、9月17日に管内3地区で開催されました。

このうち能代地区では佐藤組合長が「今年も米の価格を上げることが出来なければ、農家の生産意欲の減退、更には離農に拍車がかかるだろうと常に考えていた。直接販売比率の高いJ Aあきた白神では、生産者へ10,200円の仮渡金を決定した。今後も独自販売を中心に卸業者・商社と交渉を重ね、より有利な販売をして組合員に還元できるように努力する」と挨拶しました。その後、担当者から刈取適期の目安などが説明された他、消費者が求める安全安心な「あきた白神米」を出荷しようなどの申し合わせをし、参加者らは高品質米の生産を誓い合いました。



▲挨拶をする佐藤組合長

新米の品質検査がスタート

J Aあきた白神

平成27年産米の初検査が9月24日からJ Aの各倉庫にて行われ、品位鑑定資格を持ったJ A職員たちが、新米の出来を確認しました。

今年は天候不順による生育の影響も少なく、出芽から出穂まで順調に推移しました。7月に入ってから気温の日較差も平年より大きかったため茎数も増加し、それによる穂数も多くなりました。9月末時点での一等米比率は96.6%、55,404俵となりました。担当者は「青い未熟粒が散見されるがますますの作柄。一等米比率や整粒歩合も高く、品質の水準は申し分ない。今後の集荷ピークも、この水準を維持して欲しい。」と話していました。



▲粒の大きさや水分量などを検査する担当者



▲パネルディスカッションの様子

意思統一で目標達成へ

共済課

J Aでは10月1日、L A担当者や共済連など24名が参加のもと、L A目標早期達成決起大会をシャトー赤坂で開催しました。

情勢報告などの後に行われたパネルディスカッション「～L Aって素晴らしい～」では、当J AのL A担当者4名とJ Aかづのの川又支店長補佐、J Aあきた北央の木村調査役の6名で日々の活動の取り組み方やスケジュールの立て方、新規のお客様を増やす工夫などについて意見交換を行いました。参加したL A担当者は今後の活動に生かすため熱心にメモを取るなどし、平成27年度の目標達成に向け意思統一を図りました。

